

■今月の特選句

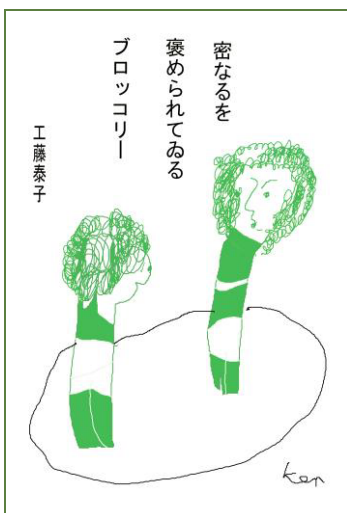
2021年3月



テーブルに鶯餅の鳴いた跡

八塚一青

おやっ、きな粉らしきものがこぼれている。鑑識眼もするどく推理力を駆使して一句に仕上げたね。鶯餅が鳴いたという断定もよろしいですね。



密なるを褒められてゐるブロッコリー

工藤泰子

俳句は対象を凝視した時に生まれる。滑稽句もそこから生まれる。この句はその典型。じっと見ると気付く。「セロリーに樹木願望あるらしく」。



見ましたね女の髭と背のカイロ

南とんぼ

見たのは男で、見られた女は当然のこと作者自身であろう。髭もカイロもバレたからにはあきらめる他ない。それともいっそ開き直るか。

■今月の特選句

2021年3月



幸福はひらけば終わる福袋

久我正明

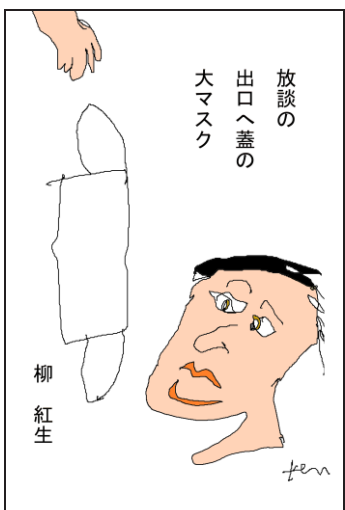
なるほどね。それなりの人生経験があり物事を達観していないとこんな句はできぬ。重厚なようで軽く、軽いようで重みがある。人生は福袋だね。



咬みこんで無口貫く冬の鍵

森岡香代子

暗くなつての帰宅。玄関の鍵穴に鍵を差し込んだが、回りもせず抜けもせず。鍵穴は鍵を啜えたまま両者だんまり。どっちも頑固だからねえ。



放談の出口へ蓋の大マスク

柳 紅生

オリンピックは開催すべきか中止すべきか、ワクチンは打つべきか止めるべきか、みなそれぞれに言いたい放題。お口には大きめのマスクが必須です。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

着飾って大マスクして成人式 ・・・写真に撮って時代を残せ	金城正則
声潜めここだけの話とマスクとり ・・・実は私コロナの陽性	壽命秀次
リモートのメイクにも慣れ二月尽 ・・・厚化粧派とノーメイク派と	高橋きのこ
結び目をほどけばたちまち春うらら ・・・財布の紐には注意なさい	吉川正紀子
句想得るまでは見ている垂氷かな ・・・下に溜まった水でも詠むか	柳村光寛
犬に聞く私の手袋知らないか ・・・愛犬だけが話相手	高田敏男
春炬燵八本の足生えたまま ・・・抜く決断のなかなかできず	日根野聖子
朝寝朝酒朝湯でさてとテレワーク ・・・通勤時間の有効利用	池田亮二
三寒四温毛穴閉じたり開いたり ・・・おそらく鼻も同じだらうね	廣田弘子
お年玉老後に備へて貯金して ・・・元気なうちにお使いなさい	稲沢進一
てふてふの追いつ追われつ追われつ追いつ ・・・蝶と連れ立ちお散歩ですね	山田真佐子
大根と息を合はせて大根引く ・・・出産場面を思ひ出しつつ	渡部美香
節電にビタミンDに日向ぼこ ・・・日焼けのシミが副産物で	久松久子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

黄身の色いよいよ濃くて寒卵	相原共良
喉越しの白魚おどればこそばゆし	相原共良
コロナ閉じ込め追儼の薬壺	相原共良
煮込まれて喜ぶ具材おでん鍋	青木輝子
歯固に三十六計総入れ歯	青木輝子
葱刻むむしゃくしゃみじん切りにして	青木輝子
まだ誰も帰つて来ない三ケ日	赤瀬川至安
正月の酒臨終の水のごと	赤瀬川至安
年寄はうどん隣家はキムチ鍋	赤瀬川至安
往生際の悪さ際立つ冬の虻	荒井 類
春の風邪コロナにあらずと言ひつゝのる	荒井 類
永谷園と「なとり」ぐるぐる初相撲	荒井 類
春待つやメロンパンのあさみどり	井口夏子
山盛りの白魚井に箸を置く	井口夏子
恋猫のブラック集団現るる	井口夏子
鬼やらい時すでに遅し福は外	池田亮二
閉居して春とワクチン待ちわびる	池田亮二
一月はやつぱり鬼門腰打撲	石塚柚彩
ヨガマットに足指の跡寒夜かな	石塚柚彩
恵方巻一本食ふ間に夫二本	石塚柚彩
いろいろと文句の多い九条葱	伊藤浩睦
怪しげな福袋売るサンタクロース	伊藤浩睦
水仙は汲み取り式のはばかりに	伊藤浩睦
着ぶくれて何か始まり終わるなり	稲沢進一
熱爛や同じ言葉を繰り返す	稲沢進一
学級通信春一番に捲られる	稲葉純子
一人地蔵は薄目してをり暖かし	稲葉純子
余寒の床にびくついて足の裏	稲葉純子
警備員寒さとコロナ受けて立つ	井野ひろみ
一桁を切り捨てて食ふ年の豆	井野ひろみ
マスクして帽子と眼鏡花粉除け	井野ひろみ
使い捨て注射針にも針供養	上山美穂
摘み立てのほうれん草にヘモグロビン	上山美穂
成人日エプロン姿でアルバイト	上山美穂
春一番まづはコロナを吹き飛ばせ	梅野光子
荒庭にたんぽぽ咲けば春めきぬ	梅野光子
寒い朝チョークの音のコツコツと	梅野光子

雪囲いとれて柁目の心電図

寅さんが顔隠せると春ショール

飛行機に車に電車冬休み

青空にゆるく抱かれ蠟梅は

蠟梅や辛党によき水の音

下校の子春一番をころがして

本通り正月飾りの見当たらず

お年玉たくさんもらひ着ぶくれる

突撃はせずコロナ禍の福袋

春の海の匂いの近し下灘駅

寒鳥有頂天で道に迷う

山眠る死んだふりしているだけで

高齢者講習風花教室

疫の業宥む寒九の雨の降る

赤べこの首ゆらゆらり寒明ける

キュウと鳴くなり二ヶ月の板の間は

お野菜も霜焼するつて不思議だな

雪こんこゾウもネズミも眠らせて

啓蟄の手土産なにがいいかしら

永き日の扉はお尻を向けどほし

豪快に笑ひ始める活火山

初場所や出たい力士も休場に

初場所や賜杯の重き大栄翔

報恩講栞にマスク挟まれて

子の調べ爺の調べや霜柱

予報士が服を指示して菊日和

幸せも袋に入れてお年玉

熱爛やとなり合せの亚克力板

ぶち抜きし水平線や初日の出

春一番山へ島へと選挙カー

煮凝れり巨大マグロの水晶体

遠慮なく太れ大根にエール

リヤカーも豆腐屋も通ったそんな話がしたい

皆マスク考える事同じ 一月一日

悪口をマスクが止めるバスの中

にわか巫女御捻りうれし神遊

食べること自粛せぬまま寒明くる

寒卵茹でればただの茹で卵

遠藤真太郎

遠藤真太郎

遠藤真太郎

大林和代

大林和代

大林和代

小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

金城正則

金城正則

久我正明

久我正明

工藤泰子

工藤泰子

桑田愛子

桑田愛子

桑田愛子

小林英昭

小林英昭

小林英昭

佐野萬里子

佐野萬里子

佐野萬里子

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

白井道義

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高田敏男

高田敏男

高橋きのこ

高橋きのこ

鯉だつて吠えるさ亀が鳴くならば
 ポパイには菠薐草や吾に酒
 コンニチワとサヨナラのある燕かな
 女正月いぶりがつこと焼はらす
 餅まきの収穫自慢冬ぬくし
 予後の犬首傾けて春を待つ
 寒月や天守閣には忍者の影
 冬帝や民を窮地に追い詰める
 健気さに頭が下がる冬すみれ
 杉花粉そこのけコロナのお通りだい
 袈裟斬りにされし筍伸び過ぎて
 息白し片道四里を漕ぐ女孫
 病床の窓に広がる春の富士
 病室の笑いが春を誘い込む
 一輪の春呼ぶ花に慰めらる
 明け方のトイレは辛し懐手
 「コロナそと！」豆まきの声張り上げし
 春隣気持ちも軽くストレッチ
 着ぶくれて相撲甚句を口遊(ずさ)む
 寒九の水呪文を唱へ嗽(うがい)する
 なんとなく猫になりたき冬日和
 順番にトランプを切る春近し
 節分のずれ一二四年ほど
 マスクより洩るる溜息耳裏へ
 ガッツポーズの蔭の薑そこかしこ
 突き飛ばし我先にとる牡丹鍋
 初夢の人忘れられず息を吐き
 父の歳までは熟(こな)せり福は内
 「相棒」をペア密で観る冬籠
 離れ住む君に献杯寒見舞
 人間も麦も踏まれてこそ稔り
 搾りたてジュース香れば春めける
 片思い思い出しては冴返る
 元旦や早来年の話する
 政始(まつりごとはじめ)いっぺえやるべえか
 初伊勢や今年中には参ろうぞ

竹下和宏
 竹下和宏
 竹下和宏
 龍田珠美
 龍田珠美
 龍田珠美
 田中 勇
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 田中晴美
 田中晴美
 田中晴美
 谷本 宴
 谷本 宴
 谷本 宴
 田村米生
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 土屋泰山
 飛田正勝
 飛田正勝
 飛田正勝
 長井知則
 長井知則
 長井知則
 西をさむ
 西をさむ
 西をさむ

ぐうちよきはあ勝負のつかぬおでん鍋
 節分や鬼も必死にコロナー外
 冬の夜や麒麟来りてピア旨し
 繭玉に背なの子もぞと伸び上がる
 年の豆八十七個ちと辛き
 定型文に始まる手紙春寒し
 貼り紙は時短営業春北風
 コロナ禍の孤独炬燵に癒される
 白粥に七草のひとつ仏の座
 武者振り緊急事態冬の乱
 寒晴れやウィズコロナは息苦し
 使い捨て懐炉に頼る歳となり
 目の前にマスクの迫る歯科の椅子
 逆しまに脱ぐ手袋を陽に吊るす
 待春や痺れを切らすパスポート
 去勢してジェンダー論議春の猫
 自粛なき沈丁の香は思ふまま
 寒波より三波が怖い棒グラフ
 埒を解く鍵を見つけよ揚雲雀
 良寛忌一羽折つても千羽鶴
 霜焼けの指あの娘には見せとない
 轍あと崩すも楽し冬の朝
 冬の月口の中には口内炎
 コロナ禍や不死身となりし冬の蠅
 獅子舞の大きな頭悪を食む
 お年玉不労所得を言ふ勿(なか)れ
 鬼やらひ嫌ひなところ父に似て
 頬被り写真の母のマチコマキ
 鬼は外目で指示をするマスク顔
 傷口によもぎもみもみカットバン
 蔭の臺こんな所にへそくりが
 節分の豆を義歯義歯噛んでゐる
 誰も言はない佐保姫の齢のこと.
 春めくや嗽(うがい)の音のがらがらも
 この星の生き物として春を待つ
 酒飲みに加担している田螺和え

花岡直樹
 花岡直樹
 花岡直樹
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 廣田弘子
 廣田弘子
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 峰崎成規
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 向田将央
 向田将央
 向田将央
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫
 百千草
 百千草
 百千草
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青

春炬燵あくび感染力強し

花の宴四角四面を丸くして

新年会呑めぬ清酒をすすめられ

新雪にイチゴミルクのシロップを

冬晴や三日月の白くつきりと

凡骨を詩人にかえるシクラメン

背なに雪盲導犬のたじろがず

節分の豆を控えて若返り

蓑虫となるや枯葉に潜り込み

山眠る中コロナ禍に町眠る

煮凝もフルーツゼリーもゼラチンよ

ひとり居にあれど豪華に紙ひひな

おお寒い大きな顔の犬が来る

冬の夜「デデ出前館」の音を待つ

間口一間布製ロバとマスク売る

湯たんぼの余熱抱きしめ瞑想す

春待つや不要不急のショッピング

笑ふ膝杖が労わりや山笑ふ

待つことに苛立ち見せぬ木の芽かな

里の屋根豆腐のやうな雪のせて

棹ささむ春江のごとき人波に

春眠や逢いたき人と旅をする

巣ごもりて茶腹人増ゆ利休の忌

駄駄つ児のごとく突つ張り凧の糸

右往左往のコロナをめがけ豆を打つ

添書はコロナコロナの年賀状

夢の中でよく働けり女正月

コロナ下に窓開け嚏初句会

柳 紅生

柳 紅生

柳澤京子

柳澤京子

柳澤京子

柳村光寛

柳村光寛

山下正純

山下正純

山下正純

山田真佐子

山田真佐子

山本 賜

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子